

JOB

三月四月は就職のシーズン。昔鉄鋼、今商社というようにこれぞ男子一生の仕事と決めても盛者必衰、そういつまでも調子良くはいかないようです。有利な就職の決め手は良い大学、というのが通例のようですが、最近の大学受験は見ても気の毒になるぐらいに大変で本人も苦勞するけれど、掛かるお金も半端じゃない。これは有利な就職口を見つける為というにはあまりに割の合わない投資だという気がします。なにしろめまぐるしく変貌する世の中で保障された一生なんてものはあり得ないのですから。この何十年かにどれぐらいの職業が姿を消した事か、そんな事を少し考えただけでも世の中は猛烈なスピードで変化していて頭が痛くなってしまいます。それならばいっその事最初から有利な条件のない仕事を選んで見たらどうでしょう。条件なんか悪くて当たり前、いい事があつたらめつけ物なんていう調子でのぼほと暮して見ても案外悪くないかも・・・それにしてものんきだった昔の人の職業はどんなもんだったんでしょう。

昭和三年発行『職業づくし』より

按摩

按摩は大抵盲の商売、処が生まれ落ちるからの盲でも眼の本能が物を見る事を要求すると見えて、肩をもみながら「その事は岩見重太郎の本に書いてありましたかね」と来る。マッサージという何となく先生らしく聞こへ、また先生面をして居る。髭を生やしたり、眼鏡を掛けたり、紋付き羽織を着たり、かばんを持ったり、「フン、ハア」と胃痛患者をもんだりする。

角力

裸が商売丈けに、有為転変、角力程露骨なものはない。一ト場所毎に上ったり、下がったり。中には上ったきり、下がったきり、といふ奴もある。稽古台が取りの転換するやうな事も束の間で、昨日浴衣一枚でブルブル震えて居た奴が今日は縮めんの羽織を着るようになったりする。それがタツタ十一日間極まる商売だ。

活弁士

「今や彼女は、恋に燃ゆる胸の炎を如何に始末しやうとするのでせうか」てな青春の血をそゝるやうな与太を飛ばすと怒りにして名活弁となる。名活弁とは与太の上手な事なり。

古道具や

下駄箱もある、風呂桶もある、膳碗茶碗皿徳利もある、風雅な花生もある、三味線胡弓琴もある、マンドリンまである、何がある、彼がある・・・乍去、いづれも使ひ古した疲勞の色、浮世の辛酸が漂っている。それでも何時か買手について、若干の銭に替えられて持って行かれる。店のあるじ、いづれ世渡りのさま々を尽くした果てであらう、使ひ古しは、店の品物に幾層倍のより以上・・・但しこいつは滅多に買手がつかないで・・・



FELLOW

続・その後の永ちゃん

INFORMATION

演奏日のお知らせ

ミルクホールの演奏日のお知らせです。ミルクホールでは土曜日から日曜日の晩にヴァイオリンを中心にした演奏会を開いております。若いクラシックの演奏家達が熱っぽく個性的に演奏致します。

今月の演奏 4月16日(日) pm5:00~
フルート&ピアノ
4月29日(祝) pm5:00~
四重奏 ヴァイオリン・ピアノ・チェロ
4月30日(日) pm5:00~
三重奏 ヴァイオリン・チェロ

ミルクホールで演奏する演奏家達は皆プロ又はプロを目指す20代の若者たちです。CDやコンサートホールでは味わえない、新鮮な情熱を身近に感じさせてくれる演奏に私達もあらためてライブで聴く音の迫力とクラシック音楽の美しさに感動します。是非一度聴きにいらして下さい。

編集部より

ミルクホールタイムス御愛読有り難う御座います。編集部では定期購読者を募集しております。御希望の方は61円切手を12枚又は732円をそえてお申込み下さい。毎月1回ミルクホールタイムスの他催し物の御連絡などをさせていただきます。



一年半の間に彼も大人になった。あまり上手くはないけれど、芝居の稽古は熱心で、お蔭でもともと良いスタイルが今度はイイ体になってきた。そのせいだろうか、今まであまりの田舎者振り、カン違い振りが災いして女が寄り付きもしなかったのに、彼女が出来た。しっかり者で世話女房タイプの可愛い子だ。威勢はいいが実はちょっとばかり小心な彼のようなタイプは彼女の母性本能をくすぐるのかも知れない。それに前にも書いたように彼は結構ハンサムだ。しかしながら二人は一年と持たなかった。彼女の方で永ちゃんに愛想をつかし他のもっといい男に鞍替えしてしまったのだ。確かに永ちゃんは図に乗っていた。イイ気になっていた。六畳一間のアパートには、永ちゃんが彼女のために取り付けた簡易シャワーだけが残った。その後、永ちゃんが荒れているという噂を方々で聞いた。飲んでではケンカ、荒れては飲む。私も一度永ちゃんが彼女の事を口汚く罵るのを聞いた事がある。そのくせ、ヤケ酒の割には勘定の払いが悪くて仕末が悪い。彼の新たな失恋の噂を耳にした直後、偶然文学部の掲示板の前ですれ違った。『やあ、またふられちゃってね』と言いながら、隣にいた見知らぬ学生から煙草を一本もらう永ちゃんの変な姿が、その時とても卑屈に感じられたのも確かだが、『今度一緒に飲もうよ』と言って去る時の後ろ姿が妙にさみしくてそれが寂しかった。そして決して良い意味じゃなく彼も背中で哀愁を出せるような大人になったのだと思うと変な感慨にふけった。彼の部屋に電話を掛けるとこの頃はたいてい留守番電話になっている。"はい、田口です。只今わたしは愛を求めて夜の街にくり出しております" 悪いけど永ちゃん、今あなたとお酒を飲みたいとは思わない。けど、もう少ししたら今度は、お酒じゃなくお茶でも飲みに行こうよ。こぶ茶なんか悪くないと思う。しっかりしてよ、永ちゃん!